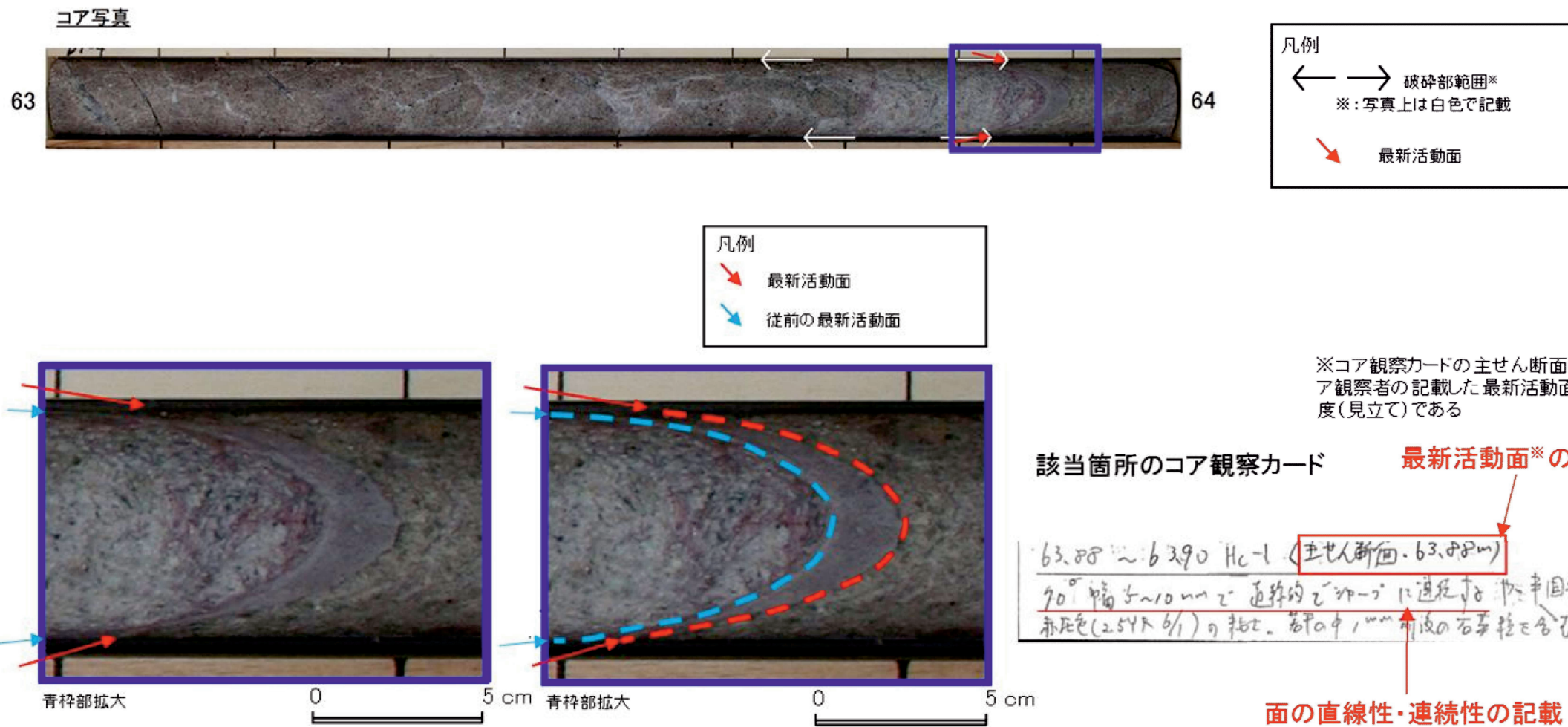


H24-D1-4 深度63.67~63.90m 最新活動面 (No.98) の変更

- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度について、薄片観察結果に深度63.88mと記載していたが、以下の理由から深度63.90mのせん断面に変更する。
- コアの肉眼観察の結果、細粒部を伴い最も直線的な深度63.90mのせん断面が最新活動面であることを確認した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度を「63.88m」と記載していたが、従前の作業プロセスでは今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため、「63.88m」と記載した根拠がトレースできなかった。

最新活動面認定根拠(H24-D1-4 深度63.67~63.90m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度63.90mのせん断面を最新活動面に認定した。

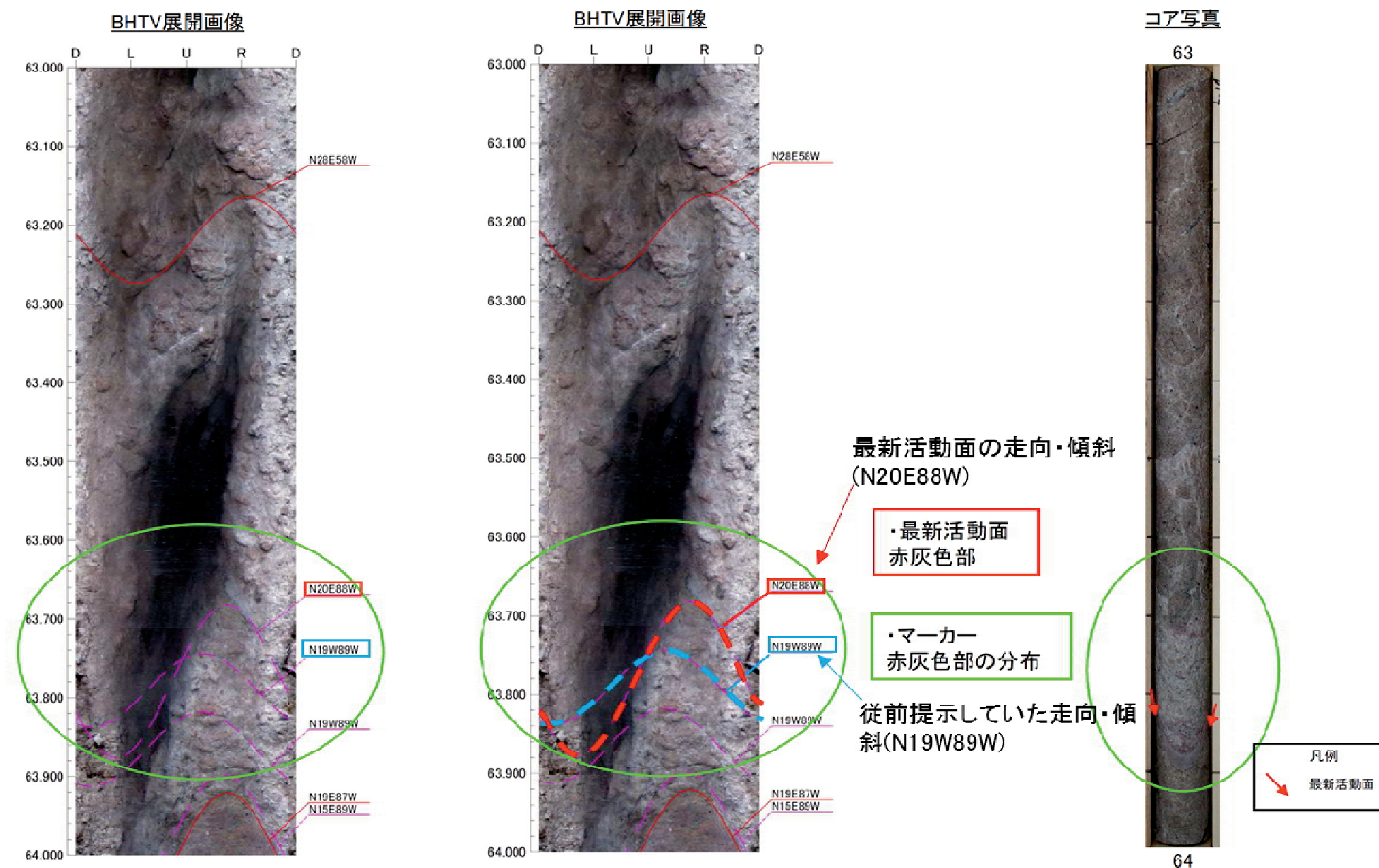


H24-D1-4 深度63.67~63.90m 最新活動面 (No.98) の変更に伴い走向・傾斜 (No.99) を変更

- 最新活動面の変更に伴い、深度63.90mのせん断面における走向・傾斜であるN20E88W (下図のボアホールカメラ展開画像の赤矢印) に変更となる。(副次的変更)
- 従前提示していたデータは、データ取得時のボアホールカメラ展開画像において63.88mに相当する不連続面のトレース線を本破碎部の走向・傾斜としたと推定される(下図のBHTV展開画像の水色矢印)。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-4 深度63.67~63.90m)

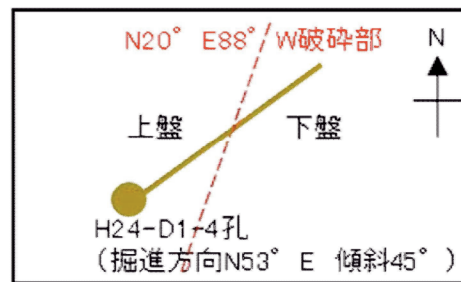
・ H24-D1-4 深度63.67~63.90mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN20° E88° Wである。



H24-D1-4 深度63.67~63.90m 走向・傾斜 (No.99) の変更に伴い条線方向 (No.100) を変更

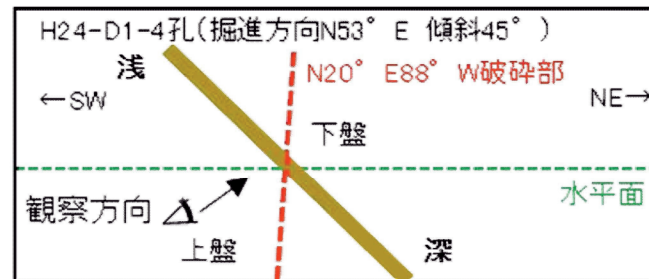
- H24-D1-4孔 深度63.90mの断層面の走向・傾斜はN20°E88°Wであり, 条線観察は上盤側から実施している。

コア写真



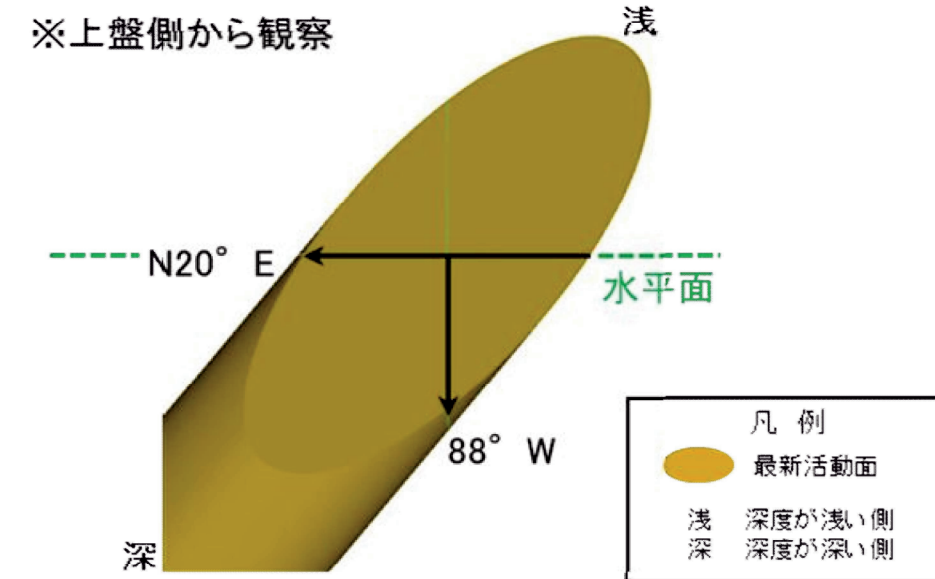
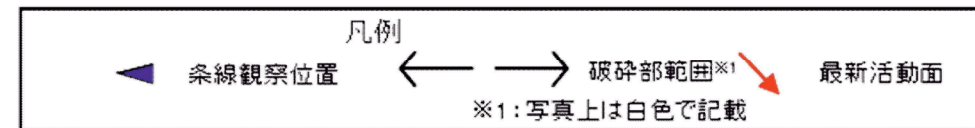
・ボーリングは掘進方向N53° E, 傾斜45° で掘削している。
 ・破砕部の走向・傾斜はN20° E88° Wであり, ボーリングと破砕部の平面的な位置関係は左図のようになる。
 ・破砕部は西傾斜であることから, 西側が上盤, 東側が下盤となる。

図1 H24-D1-4孔位置平面図(模式図)



・ボーリング(掘進方向N53° E, 傾斜45°)と破砕部(走向・傾斜N20° E88° W)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
 ・ボーリング孔の浅い側が上盤, 深い側が下盤となる。

図2 H24-D1-4孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H24-D1-4 深度63.67~63.90m 走向・傾斜 (No.99) の変更に伴い条線方向 (No.100) を変更

- H24-D1-4孔 深度63.90mの断層面の走向・傾斜はN20°E88°Wであり, 66Lの条線が認められる。

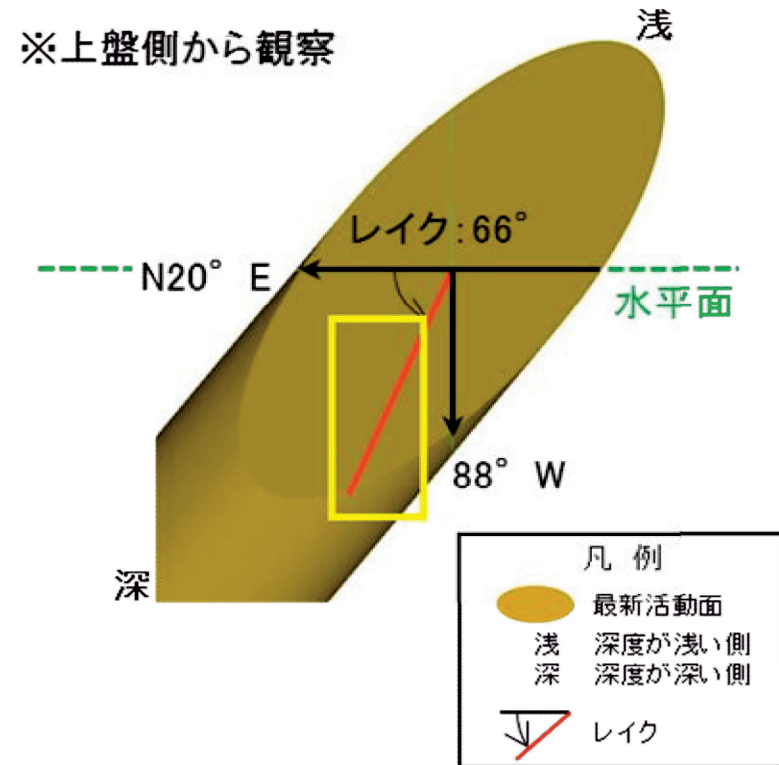
コア写真



凡例

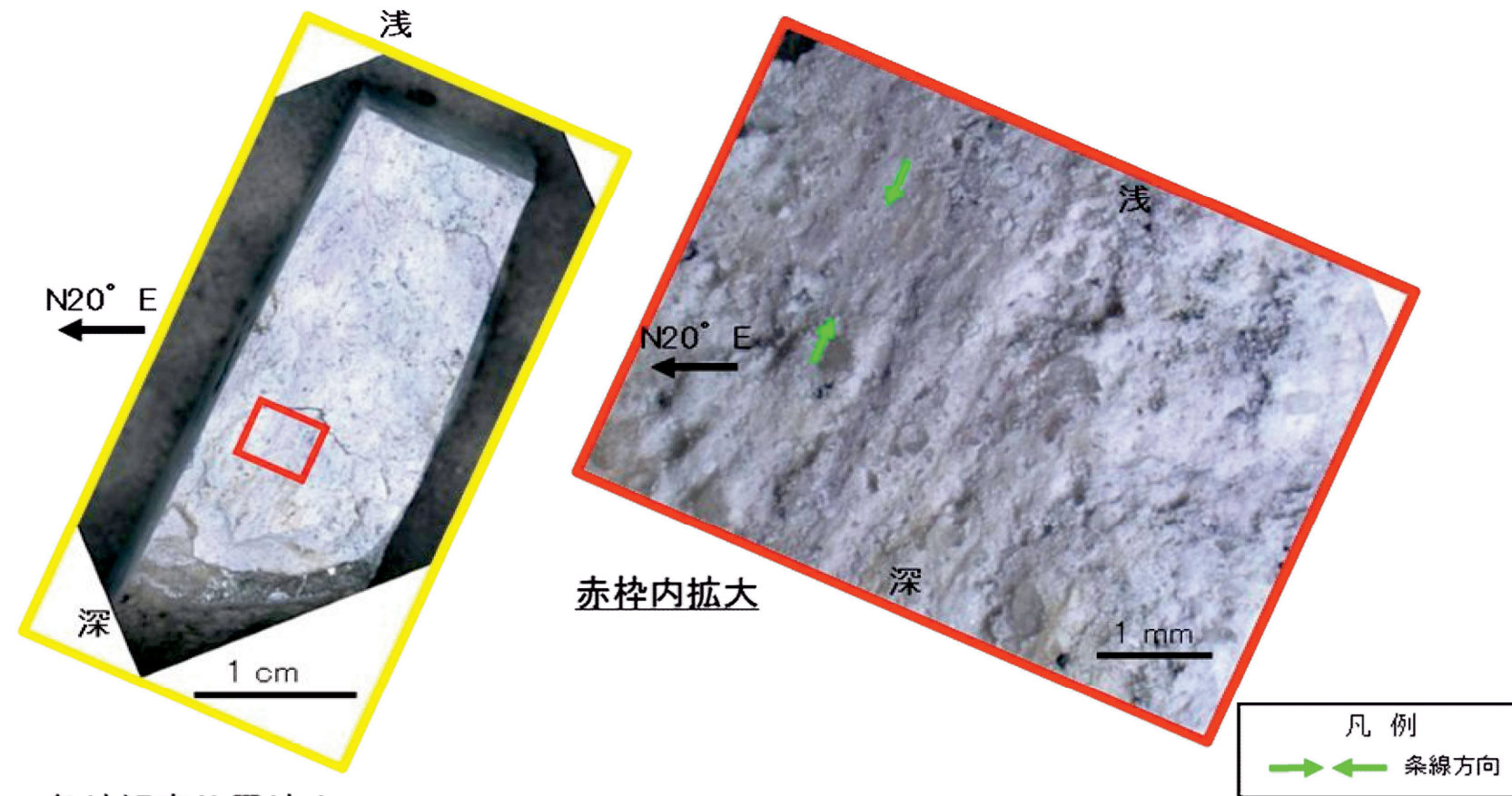
- 条線観察位置
- 破碎部範囲※1
- 最新活動面

※1: 写真上は白色で記載



・前頁の図3に, 計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。

図4 最新活動面と走向・傾斜, 条線の関係図



条線観察位置拡大

H24-D1-4 深度63.67~63.90m 走向・傾斜 (No.99) の変更に伴い条線方向 (No.100) を変更

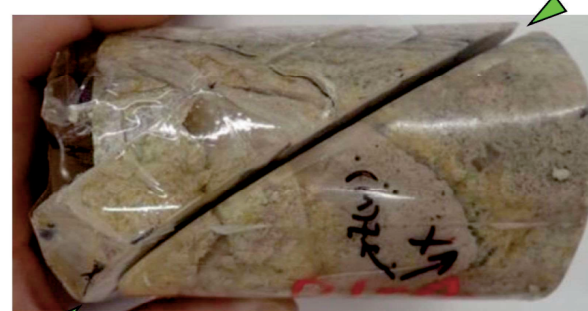
- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲*
※:写真上は白色で記載
最新活動面

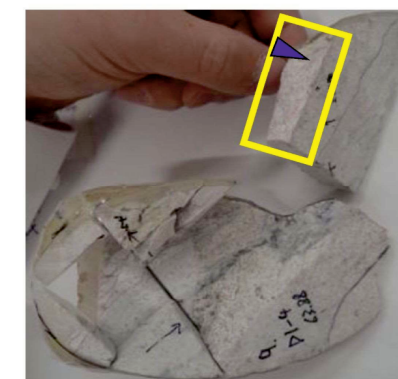
研磨片写真(コア向き)



0 5 cm

凡例
▲ 試料切断方向

条線観察位置



0 5 cm

凡例
▲ 条線観察位置

研磨片作製位置

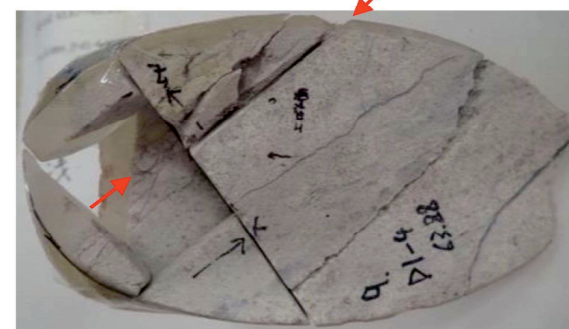


青枠部拡大

0 5 cm

凡例
▲ 最新活動面

試料切断面



0 5 cm

凡例
▲ 最新活動面

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

1 cm